

ぎふ地域の絆づくり 支援センターだより

地域で活発な活動団体を紹介します!



清流の国ぎふ

岐阜県環境生活部県民生活課
ぎふ地域の絆づくり支援センター
〒500-8570
岐阜市数田南 2-1-1 (県庁 6 階)
電話 058-272-8199

第27号
令和3年3月発行

34 若葉台高齢福祉連合会 (可児市)

活動地域: 可児市若葉台地区 活動拠点: 若葉台高齢福祉連合会ふれあいセンター 代表: 村上 博三

地区の概要

若葉台団地は、可児市の南西に位置し、昭和40年代に名古屋市のベッドタウンとして住宅開発が進んだ。高齢化の進む団地住民の生活支援を行うため、主要な地縁団体が連帯して「高齢福祉連合会」を立ち上げ、支え合い活動のネットワーク化が図られている。

【地区のデータ】 世帯数:1,364世帯 人口:3,061人 地区の高齢化率:42.34% (令和2年12月1日現在)

会の概要

設立: 平成24年3月

組織: 運営委員と各事業の代表者及び民生委員、各事業スタッフ、ふれあいセンタースタッフで構成されている。

経緯: 平成23年、自治会長と現代表が、若葉台で独自に活動していた団体(老人会、女性会、里山若葉クラブ、高齢者サロン等)と民生委員を招集し、高齢者問題懇談会を立ち上げ、そのメンバーで「若葉台高齢福祉連合会」を結成。平成24年3月に自治会の「若葉台定例総会」にて承認され、自治会の委託事業として高齢者を支えるための活動を始めた。

会の特色

- 各活動団体が情報共有をし、同じ目的に向かうことにより連帯が生まれ、地域の総力が結集されている。
- 可児市のアドバイスにより、ケアマネジャーや地域包括支援センターなどの専門分野と連携し、高齢者を包括的に支える仕組みづくりをしている。
- 各事業のスタッフがそれぞれ自律的、発展的に運営することで、ストレスや負担感がない。
- 誰もが思う自然な想いを共通基盤に、のびのび活動できる環境づくりのため、①自主裁量(自分の得手を自分の考えで) ②対等の原則(役割はあるが地位なし) ③任意参加(できる時にできる事だけやればよい)を3原則としている。
- スタッフの男性比率が高い団体である。

主な活動

●自立支援事業(生活の利便性の向上を目的とする)

- 買い物移動支援アッシーくん: 地域の12か所の乗降所から西可児駅周辺のスーパーマーケット、病院、郵便局、銀行等を一日4往復し、高齢者の日常生活の足となっている。車には付き添いボランティアが同乗し、利用者の乗降の補助をしている(月水金A 火木土B の2コースに分けて週6日運行)。当初は各乗降所から2か所の停留所間の運行だったが、利用者の様子を見ながら、自宅まで送るなど柔軟に対応している。運行開始以来、無事故無違反でトラブルも無い。



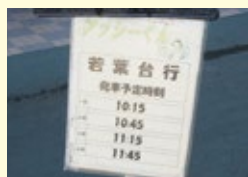
アッシーくん



乗車前の手指消毒



乗降所



時刻表



帰路は自宅まで

- ちょっと支援: 日常生活でちょっと困ったこと(ゴミ出し、草刈り、樹木の刈込、網戸交換、障子の張替、買物支援、塗装など)の手助けをしている。
- よりそいネット: 散歩、病院や役所などへの同行支援、買い物支援、家事支援や困り事相談、安否確認(見守り、ゴミ出し)等を女性中心のボランティアが手助けしている。

● ふれあい事業

(認知症予防などのため、地域に出かけるきっかけとなることを目的とする。男性も参加しやすい事業を行う。)

- 認トレ教室 …… 身体を動かしながら頭も使い、脳も体も元気になるトレーニングを行う。
- はつらつ運動教室 …… 市が推進する体操に準じた内容で、椅子に座ったままできる運動を行う。
- ダンディサロン …… 脳の活性化と体力維持、友達作りを目的として、民謡踊りや盆踊りを行う。
- 健康麻雀クラブ(教室) …… 経験者のクラブと初心者の教室に分かれ、麻雀と会話を楽しむ。
- 楽しい寺子屋 …… 脳トレ、健康維持、地域との交流を目標に、テキストを使い脳の訓練を行う。
- わかば302 …… 団地内及び周辺の5種類のコース(約2~3km)をウォーキング。

【感染症対策を取りながらの活動の様子】



認トレ教室



はつらつ運動教室



ダンディサロン



健康麻雀クラブ



楽しい寺子屋



わかば302
(昨年の様子)

● 安心パートナー制度

- 災害時や急な身体の不調に友人や隣人がいち早く気づいて迅速な救援を行う、高齢者を地域で支え合う事業。自分の見守りをしてほしい友人・隣人他2~3名を「あんしんパートナー」として登録する制度で、見守りを願っている人が思いつかない方のために、パートナーの募集もしている。

課題

- 各活動の年間延べ参加者は、16,000人(平成29年度)いるが、65歳以上の高齢者の内、ほぼ30%しか参加していない。これは、同じ人が複数の活動に参加しているということである。広報紙を一般回覧に加えて個別に配布したり、参加者による声掛けなどを行っているが平成29年度以降は参加者が伸びていない。日頃の交流が地域の支え合いに繋がるので、まだ参加していない人いかに参加していただくかが課題である。
- 各事業のスタッフ約90名は70歳から84歳で、高齢者が高齢者を支えている状態。最近では、定年延長で、非常勤も含め70歳位まで働く人もあり、スタッフに加わってくれる人が少なく、スタッフ年齢の若返りができていない。今後事業が継続できるかが課題である。

今後の展望

- 高齢者を地域で見守る「安心パートナー制度」を令和2年度からスタートした。基本は地域の絆づくりであるとし、制度を始める一年前から、地域の絆づくりキャンペーンチラシを10回にわたり配布し賛同を得ている。困った時はお互い様、近くの人が頼もしい等の住民意識の向上が、課題解決にも繋がって欲しい。

取材を終えて

アッシーくんを利用されている方より「他の地域にはないサービスで、毎日利用しています。」「地域と駅周辺までには坂道が多くとても助かっています。」等の声を伺いました。健康維持のため、荷物を持つ帰り道だけ利用される方もあるとのこと。今年度はコロナ禍で、乗車定員を減らし、運転席との間にビニールシートで間仕切りをし、乗車時には手指消毒をする等の感染症対策を取りながら、心待ちにしておられる利用者さんのために、継続して運行されています。関係者の皆様にはお忙しい中、取材にご協力いただきありがとうございました。

ぎふ地域の絆づくり支援センターからのお知らせ

地域の課題解決応援事業をご活用ください!

自治会・まちづくり協議会など地域住民主体の団体を対象に、防災、防犯、福祉、まちづくり活動など、身近な地域の問題や課題の解決につながるヒントを提供する専門家をアドバイザーとして派遣したり、地域住民の間で課題を洗い出し共有するワークショップを行う場合のファシリテーターを派遣するなど、要望に応じて課題解決の応援をします。(オンライン対応もご相談ください)

例えば…

- 高齢者に地域で生き生きと活躍してもらうための講座を開きたい!
- 地域で防災について学びたい!
- まちづくり活動を活発にしていきたい!

講師の派遣費用は
県が負担します!

詳しくは、ホームページ検索サイトで

地域の課題解決応援事業

検索

